

## 令和5年度第2回城東区区政会議（地域福祉部会）

日時：令和6年1月23日  
19時30分～20時30分

### ○弟子丸部会長

地域福祉部会の方を進めさせてもらいます。部会長の弟子丸と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

8名ということでこれから始めさせていただきますが、まず、今回初めて委員になられた方もいらっしゃると思いますので、お名前の紹介と、この地域福祉部会、先ほどの説明も踏まえまして、自分の思い、委員としての参加の意義等も含めましてお話しいただければと思いますので、順番に聞かしていただいてよろしいですか。

では、有田委員からどうぞよろしくお願いいたします。自己紹介と、先ほど説明がありました中で、質問とか、それに対する意見とかございましたら、出していただきまして、後でまた報告させていただきます。

ご意見は、また後でもいいんですが、もしポイントだけでも教えていただければ。

### ○有田委員

意見はまだまとまってないんですが、聖賢地域活動協議会の有田と申します。よろしくお願ひします。また意見は後程。

### ○弟子丸部会長

はい。よろしくお願い申し上げます。じゃあ次の方。

### ○門田委員

鯉江地域の門田といいます。初めてこの区政会議に推薦されました。ただ、今何をしたいのか全然わからないので、これから勉強していきたくと思います。よろしくお願いいたします。

### ○北村委員

榎並地域活動協議会から参りました北村と申します。今おっしゃったとおり私も初めてで、皆さんのお話から学ばせていただいて、いいアイデアが出れば私も発言していきたくと思います。

### ○高橋委員

公募委員の高橋と申します。ちょっと初めてなので勝手わかってないんですけども、やっぱり、僕ら現役世代でちょっとお金の負担が大きい世代ではあると思うんですけども、限られた予算がどのように使われていくのかなっていうのが、結構気になるので、そのあたりを、自分たち現役世代の目線で意見できたらいいなと思ってます。よろしくお願い申し上げます。

### ○嶋委員

嶋といいます。公募です。私はちょうど城東区に44年間住んでまして、そのうちの約半分ぐらいは会社の関係で全国をウロウロしまして、13年前ですかね戻ってきたの。それ以

降あんまり正直、城東区というか、嫁さんだとか、子どもが育って巣立っていったこの土地にあんまり何も貢献してないということで、だいたい歳もとりましたけど、これが少しお役に立てばということで応募させていただきました。私も歳はとってますが、こういう会議は初めてなので、いろいろ勉強してもらわないといけないと、お役に立つのと、一緒に勉強してもらえたらありがたいなというふうに思っています。

それから、ちょっと1つだけ教えていただきたいんですが、この達成目標とか達成状況だとか、それから区役所の評判なんかもそうなんですが、みんなアンケート、そういう何パーセントの目標で達成だとか、あるいは3つ星の考え方も入れたとかおっしゃられてるんですが、そこら辺の客観性といいますか、どういう人たちを対象にアンケートして、どういう方法で取って、どういうことなんだなというのを、ちょっとそこら辺を教えていただければありがたいなと思っています。以上です。

#### ○河野委員

関目東地域活動協議会の河野です。私も今回初めて選出されましたので、こういうものかなと思っています。ちょっと教えてもらいながらやっていきたいと思っています。民生委員をさしてもらってますので、地域との関わりとか、これからですね、いろいろお聞きしてやっていきたいと思っています。よろしく願いいたします。

#### ○弟子丸部会長

はい。ありがとうございます。この地域福祉部会は、主に経営課題4の「地域が支えあい、住み慣れた場所で安心して暮らせるまちへ」に関することを中心にご意見を伺っていくことになるかと思いますが、今それぞれ自己紹介を含めて、出された意見の中で、特に嶋さんの方から出された課題に対する評価ですね、アンケートが何%、3つ星とか、そういう客観性について、ちょっとお聞きしたいということでしたので、ちょっとお答えいただければと思います。

#### ○椿谷保健福祉課長

保健福祉課長の椿谷でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

ご質問いただきました、業績目標とか達成状況の設定でございますけれども、基本的には達成したのか、してなかったのかが、明らかになるように、できるだけ数値で定量的なもので設定をしていこうということで、しております。例えばでございますけれども、経営課題4、下のですね、業績目標でございますけれども、基本的には福祉は支えあいというのが1つの大きな重要なワードかなというふうに思っております。まず供給する側ですね、福祉サービスを提供する側からですね、お互い様々な団体や関係者と連携しながら、共に支え合いながら、活動ができるかどうか、まずこれが1つの指標になるかなというふうに思っております。具体的には、地域で様々な支援が必要な方々の相談にのっていただいている民生委員さん全員に対してですね、アンケートを取らせていただいて、福祉の担い手の助け合いにより支え合う活動ができているかということでアンケート取らせていただいて、現時点で60.4%という実績でございますが、より高めていこうということで、65%以上という目標設

定をしております。なかなかこの間についてはコロナがございましたので、面と向かい合っ  
ての連携というのは難しいところでございます。なかなか率が伸びにくいんでございま  
すけれども、一定コロナも落ち着きを見せましたので、この 65%以上に向けてですね、我々  
も民生委員さんの活動の支援をですね、していきたいと考えております。

もう 1つ、医療介護連携、まあ地域包括ケアシステムっていうんですけど、下の部分で  
ございますが、まずこういう医療と介護の連携のプラットフォームといいますか、そういう会  
議をすでに作っておりますので、まずそれをしっかり回数をこなして、議論を進めていくと  
いうことが大事だなと思っております、そういう意味で、この会議の開催回数とか、でき  
るだけ対象を広げていきたいなと思っておりますので、参加人数というのを設定して  
おります。

また、この医療介護につきましても、人材育成というのはやはり重要でございますので、  
研修会を開催いたしまして、いろんな方に参加をいただいて、スキルアップにつなげるとい  
うことで、このように設定させていただいております。

あと実際、医療介護連携ですね、チラシも作っておりますので、そういうチラシを利用し  
てですね、区民の方の認識向上を図るために、連携先に置いていただいてですね、区民周知  
を図っていただくということで、3つ目の項目を設定しております。

かなり城東区の場合、医療の方々とか、介護関係の方々、熱心な方が非常に多ございま  
すので、かなりの回数を開催しておりますし、かなり熱心に参加をいただいておりますので、  
さらにこういう活動を広げていくように取り組んでいきたいなと思っております。

#### ○弟子丸部会長

ほかに、今、経営課題 4 ということなんですが、「地域が支え合い、住み慣れた場所で安  
心して暮らせるまちへ」ということで、「高齢者、障がい者、子どもを地域が互いに見守り、  
支えあうまちづくり」ということで書かれていますが、その辺、何かね、皆さん、公募の方  
もいらっしゃるんですが、それぞれ地域活動協議会の、関わりを持っていらっしゃる中で、地  
域の中で、こういうことはどうなのかとか、あるいはこういうことをやってるとか、いうお  
話をいただければ嬉しいですが、どうでしょうか。

#### ○嶋委員

地域活動協議会というのは、具体的にはどういう活動をされる会ということで定義され  
てるんでしょうか。まあ、この通りだと言えはこの通りなんだろうけど、人と人の繋がり  
がとか、地域活動を活性化するためとか、いろんな情報を発信をするとか、いろいろある  
んでしょうけど、どういうことをしてどうなれば、地域活動協議会というのは、いいとい  
うか悪いというかはちょっとね言い方あれですけど、正規に活動されて、予算的にも地域活動  
協議会へ何ぼか出されてるわけですね。補助金というか、人件費等も含めて。それはどう  
いう内容なんだと。もうずっと長くここに居て、そういうことも知らんのかと言われたら申  
し訳ないんですが、ちょっと教えていただければありがたいです。

#### ○椿谷保健福祉課長

地域では地域活動をされています。町会があって、地域振興会ってございますね。町会の集まりですね。ただそれだけではなく、町会に加入されていない方も含めて全ての方に地域活動に参加いただく開かれた地域活動をめざそうということで、例えば地域振興会とか、例えば青少年指導員であるとか、青少年福祉委員であるとか、あとですね、地域での見守りやってくれてる人とか、生涯学習とか、様々な分野の方々に参画いただいて、そのことで多様な地域活動をしていこうということで、城東区内で16地域の地域活動協議会を設置しています。そこはやっぱり広範なことやっていたくので、例えば教育のことだとか、高齢者支援のこととか4〜5項目ほど設定されてる、そういうことをやっていたくということで、区長が準行政的な団体として認定をいたしまして、そういう認定のもと公金であります補助金をうってる、そういう団体、広く開かれた地域活動団体とご理解いただければと思います。

○嶋委員

わかりました。何でそういう質問をしたかといいますと、私、マンションに住んでるんですけど、10人の、だいたい30年以上住んでる人に地域活動協議会ってご存じですかって聞いたんですよ。知ってた人3人いました。その3人の方に具体的にどういう活動されてるんですかって言ったら、うーん何でしょうって。聖賢なんですけど、聖賢まつりとか何かああいうの主催してるんじゃないの。たまたま17町会なんですけども。ちょっと私ができ悪いんじゃないかと言われたらそうかもしれないんですが、57%、58%ですか、令和4年度で57%が知ってるよ、区民は知ってるよと、半分以上は知ってるよと、けど57ということで、ちょっと実感と違ったもんですから。お前ら不勉強やと言われたらそうなんですけど。

○有田委員

連合プラス各地域の団体と合わせたものが地域活動協議会です。連合とイコールではないですよ。連合がやることが大体地域活動協議会に入ってくるんですよ。地域活動協議会はちょっと大きくてその下に連合があるんですけども、連合の人が中心でやってる活動がそうなんですよね。

○嶋委員

それお伺いして、今やっと理解できたんですが、ただ、区民が知ってるというレベルかなと。ただそういうことは、たぶん我々も何回か参加させてもらってたと思うんですけども、あるいは発信された文章を見たっていうのはあったと思うんですけども、ただそれが地域活動協議会でやられて推進されたのかという認識を区民はあんまり持ってはらないのかなっていう気がするんです。それがどうのこうのっていう話じゃないですよ。ただ、そういう意味では、もうちょっとアピールされてもいいのかなと。逆に言えばね。それでちょっとこの数字は違和感あるなど。

○有田委員

ポスターとかチラシには、連合町会とはあんまり書かないんですよ。地域活動協議会って書いてますんで、それを見ていただいたら、だいたい活動内容がわかるんです。

○嶋委員

それを、見てないよって。こちらが悪いっちゃあ悪いんですけど。

○有田委員

そういうことじゃないですね。ただ、一番下に地域活動協議会主催とか共催とか、これからチラシ見ていただいたらわかると思います。

○嶋委員

いろいろイベントあったときには確認さしてもらいます。

○有田委員

そうですね。

○嶋委員

すいません。知らないことばかりで。

○椿谷保健福祉課長

それでちょっと目標の設定の仕方とか、達成状況のですね、設定のことちょっとお尋ねいただいて、今、福祉って本当に幅広い分野でございまして、代表的なものとしてこの運営方針でこういう設定をさせていただいてるんですけど、上段に書いてます地域福祉プラン、食育推進プラン、健康増進プランっていう形で、具体的な中身を書き込んだプランですね、これ3か年の計画でありますけど、それにつきまして、各項目ごとに目標数字を設定させていただいて、四半期ごとにその目標が達成できてるかどうか、進捗確認しながらやっておりますので、この運営方針だけではなくって、こういうプランも立てまして、地域福祉の取組みさせていただいているところでございます。

○嶋委員

聖賢っていうたらあれですけど、董だよりとか、鯉江だよりとかいうのは、協議会で出されてるやつなんですかね。

○椿谷保健福祉課長

広報紙ですね。その地域の。

○嶋委員

1階に城東マップと同じように置かれてるのありますよね。階段がある、隣といいますか、トイレの前といった方がいいのか、そういうのも1つの活動のあれなんですよ。

○椿谷保健福祉課長

そうですね。地域活動協議会そういう形で広報紙出されてるところとか、ホームページとか、フェイスブックとか、そういった形で情報発信されてますね。

○嶋委員

フェイスブックとか出されてるんですか。

○椿谷保健福祉課長

ええ。

○嶋委員

全地区の協議会っていうのか。

○有田委員

聖賢で。

○嶋委員

聖賢は出されてるんですか。すみません、ちょっと見てみます。

○有田委員

うちの聖賢地域活動協議会で調べていただいたら結構出てます。

○弟子丸部会長

ほかにないでしょうか。

○高橋委員

資料3の予算関係の話なんですけど、ページ26で、災害時の地域支援の事業が書いてあるんですけども、災害時要配慮者支援事業とか、災害時に助け合うということだと思んですけど、具体的に何か、どういうことをしてるのかちょっとわからなかったの、少し教えていただきたいんですけど。

○椿谷保健福祉課長

地域サポーターっていう方がいらっしゃいます。俗に地域福祉支援員っていうふう呼んでるんですけども、それは各地域に概ねおひとりずつ、地域の推薦をいただいて区長が委嘱するということな私たちの地域福祉の活動をする方がいらっしゃいます。そういう方々を中心にですね、特に高齢者とか支援の必要な方の見守りをですね、していただいております。通常時は見守りなんですけど、いざ何かあったときはやはり災害時の災害弱者にも繋がりますので、普段の見守りをいざ何かあったときには支援の手助けをいただくっていうかたちで、そういう方を核に、活動をしていただいている、そのための経費なんです。

○嶋委員

よろしいですか。

○弟子丸部会長

どうぞ。

○嶋委員

ちなみに、城東区でおひとりの方、65歳以上でおひとりの方というのは、何人といえますか、高齢者の何%ぐらいですか。世帯数に対して。一番弱者というか、何かあったときに、災害でもそうですけど。

○椿谷保健福祉課長

ひとり世帯というわけじゃないんですけども、見守りが必要な方ですね。例えば障がいのある方など、そういう方をピックアップしてリスト化してましてね。城東区で9千人くらい。

○嶋委員

9千人くらいですか。9千人全部を訪問されてるんですか。

○椿谷保健福祉課長

9千人の中でも、例えば家族がもう見守ってるからいいよという方もいらっしゃいます。やっぱちょっと支援して欲しいなっていうことで、名簿をですね、各地域に出してもいいよって同意をいただいている方がだいたい5千人いらっしゃいます。そういう方は民生委員さんに名簿を提供いたしまして、平常時の見守りをいただいています。

○嶋委員

民生委員って今何人いらっしゃるんですか。

○椿谷保健福祉課長

200人ちょっとくらい、正確な数字は今、できませんが。

○嶋委員

聖賢地区でどれくらいいらっしゃるんですか。民生委員は。

○有田委員

24町会ありますので、基本的には各町会一人ずつ。

○椿谷保健福祉課長

一応、欠員もあると思いますけど。

○嶋委員

定員はずっと変わってないんですか。10年、20年、30年。

○椿谷保健福祉課長

そうですね。逆にやっぱり、なり手の確保がなかなか難しいので、定員増やすってことにはなかなかならないですね。

○嶋委員

民生委員って経費は、交通費はもちろんあれですけど、人件費は貰ってらっしゃるんですし。

○椿谷保健福祉課長

基本的にはボランティアで、実費弁償ですね。

○嶋委員

そうですね。実費を還元するだけですね。

○椿谷保健福祉課長

そうですね。

○嶋委員

それを増やさなきゃいけないんじゃないですか。間違いなく増えてると思うし、見守り。

○椿谷保健福祉課長

ただ、今定員もなかなか埋まらない状況もございます。

○嶋委員

確かにね。

○椿谷保健福祉課長

福祉の担い手確保っていうのがやっぱり一つの大きな課題ではあります。

○嶋委員

でも、今回能登で、田舎富山などで、親戚とかいるんですけど、22人が今まだ行方不明って言ってますけど、それ以外にわからないというのもまだ何人かいらっしやるみたいで、それ全部お一人様のようなんで。そういうのは都会だから大丈夫だろうという気もせんことはないんですが、田舎とはちょっと違うかもしれません。

まあ民生委員さんも大変、なり手が無いと言えばそうなんだろうけど、ちょっと増員せんといかんでしょうね。

○椿谷保健福祉課長

見守りっていうのは民生委員さんだけじゃなくてですね、地域活動協議会、地域もかなり見守っていただいておりますので、地域全体で見守っていただいていると考えております。

○有田委員

町会が中心ですけどね。

○嶋委員

町会単位でやりたいからやるっていうものではないですよ。区役所単位の民生委員ですよ。

○椿谷保健福祉課長

民生委員は厚生労働省、国の委嘱です。

○嶋委員

厚労省ですか。じゃあ、基本的には簡単に区では決められないのですか。

○椿谷保健福祉課長

一定それは勝手に決めるというわけにはいかないですね。

○嶋委員

そうなんです。

○高橋委員

今さっき、お話の途中で福祉の担い手が必要ですよというお話が出ていたと思うんですけど、これから高齢者の方もより増えたりとか、実際子どもは減っている状況で、担い手をどうしていくのかと思うんですけど、何かありますか。

○椿谷保健福祉課長

そうですね。一番そこが痛いんですけど、地域の方ではかなり工夫しながら活動していただいております。例えば防災訓練ですね、地域の活動の大きな事業の1つ、やっぱり地域住民の命を守る、そういう防災訓練なんかで、例えば、子どもたちを集めたりですね、若い方々も学校でやりますんで、参画いただいて、防災を切り口に、多様な若い方とか、参画いただいて、地域活動に興味持っていただいているのかなと思っています。

○弟子丸部会長

ちょうどね防災の問題が出て、今回ね1月1日の震災ということがありまして、これ今



ね、先ほど65歳以上の世帯、見守りのリストが9千人対象、城東区で。それで同意して名簿に登録されているのが5千人ぐらいで、いざここでね、これから南海トラフのとか言われてる中で、災害が起きたとき、そういう対策が、いざ起きた時に役割ですよね。どういうふうに地域がそういう方たちに、自分の身もありますので、どういうふうにやっていくのか、そういうのは話し合いとか、地域活動協議会の中とかでは、区役所と連携して、話し合いはされてるんでしょうか。

○椿谷保健福祉課長

今、個別避難計画の作成をですね、各地域で主に作っていただいております。具体的に避難に際して支援が必要な方に対して、具体的にどうして支援していくんだっていう計画でですね、各地域が中心になって取りまとめていただいておりますので、それは先ほどの普段の見守りの要援護者名簿をベースにですね、避難活動の要支援者名簿を作って、それをベースに個別避難計画の作成を順次、熱心に取り組んでいただいております。

○弟子丸部会長

実際にいつ災害っていうのは起こるかかわからないんですけど、すぐ対応ができるくらいの計画が進んでるんでしょうか。

○椿谷保健福祉課長

実際問題としてはいろいろ難しい課題があるかと思います。助ける側も高齢化も進んでおりますし、普段から地域の方で考えていただいて、実際、ものとして作っていただくことも大事で、その延長線上にそれをベースにした防災訓練とか、避難訓練とかに繋がっていくのかなと思います。

○弟子丸部会長

防災については、地域の中でということですが、何か感じられていることがあれば。

○河野委員

関目東では、高齢者に対して食事サービスとか、ふれあい喫茶の参加を呼び掛けるんですけど、なかなか外へ出るのが億劫で、友達同士で誘い合って行きましょかっていうたら来てくれはるんですけど、なかなか一人では難しい。コロナ前までは食事サービスに来ていただいて、話しながらやってたんですけど、コロナになって取りに来ていただくかたちでやったんですけど、それでもなかなか来てくれる人が増えない。それをこれからどうしようかなと、地域では検討しているところです。

○椿谷保健福祉課長

河野委員が今おっしゃいましたように、コロナ前までは集まることができてたんですけど、コロナで集まること自身がちょっと難しかったですね。それが数年に渡りましたので、なかなかその繋がりがだいぶ、ちょっと希薄化してしまった部分があるかなと思っています。そこをいかに再構築していくかっていうところが、やっぱり課題かなと私も思います。

普段来てる人が来なければ、じゃあ、あの人どうしたんかなと、ちょっと行ってみようか

など、普段の見守りをね、閉じこもりがちになっておられた人にも、ぜひ来てよねみたいな、言っていただくことが重要かなと思うんですけども。

○嶋委員

高齢者が、どなたがお一人で、どなたが老夫婦なのかというプライバシーが、非常に隣近所でもわからない、そういう状況なので、私もマンションなんですけど、管理人も知らないですよ、何人住んでるといのは。もちろん管理会社も知りませんし。で、町会とかそういう方々、自治会じゃなくて管理組合もそういう情報は知らないですね。だからやっぱり、ある程度公的な、さっきの見守りで伺うというものがないと、我々の普通の隣人で、何かあったときに言えとかね、そういうのはちょっと辛いかなというのがあります。

ただ、そのリスト、じゃ我々貰ってどうすんのって話はまた別なんですけどね。例えば公的な、そういう組織とか役割を持った人がそういう役割を担わないと、9千人いうとさすがに厳しい数字だろうと思いますけど。

○有田委員

狭いところなんですけどね。町会とか、班も。うちは10軒くらいの班なんですけど、その辺は連携としてはありますよね。

○嶋委員

区がいいのか、国がいいのかわかりませんが、そういうやっぱり強制的にある程度訪問して、そういう状況を使っていたきたいところと、ある程度隣組はわかるよと地域の人が助けるからいいよと、色分けして対策とった方がいいのかもしれないね。

○椿谷保健福祉課長

普段の見守りでも新聞溜まってるとか、しばらく見ないねっていうことで心配であればですね、地域包括支援センターとかありますので、気楽にそういう専門的なところに繋いでいただいたら、またそちらの方で対応させていただきます。

○嶋委員

今、新聞とってる人そんなにいないですけど。

○門田委員

やっぱり今、年取った年齢の人ばかり言ってますけど、私とこの地域は1Kのところが多いです。ということは、若い人が一人住んでるとか、二人住んでるとか、そういうのは全然わからないので、やっぱりお年寄りも大切ですけども、若い人たちも何人このマンションはどれくらい住んでるのか把握できてなかったら、色んなことで助けることとか、助けてもらうこともしてほしいし、若い人たちにも。そういうような考えでいきたいなとも。やっぱり年取ってる人のこと考えるのも大切だと思うんですけども、やっぱり若い人たちのことも考えたいなというのがありますね。私とこは1Kが、すごいマンションがあるので。もうほとんど、番号を押さないと会えないっていう感じなんですけども、全く若い人たちは何人住んで、誰が住んでるっていうのもわからない感じなのでね。ちょっとそういうのも寂しいなっていうのがあります。

○嶋委員

関目、成育、聖賢、鯉江くらいまでは1Kと。

○門田委員

多いです。

○嶋委員

老朽いうたら語弊がありますが、もう40年、50年前のマンションで、今老夫婦だけの、非常に多いところなので、多分、感覚的に言ってますけど、やっぱりそういうところと、それとあと放出とかあっちになると一軒家、董なんかも一軒家が多いですけど、違うあれだと、同じ区であっても考え方は違ってきていいという表現はどうかかわりませんが、福祉という意味では、違うあれをうっていただきたいなとは思いますが。

○門田委員

こういう会議でも、若い人たちが、多分だいぶ年齢が違うと思うんで。そういう人たちの意見を聞きたいっていうのがありますね。

○有田委員

やっぱり町会に入ってほらないですか。

○門田委員

入ってません。

○有田委員

入ってなかったら、全然わからないですわね。

○門田委員

ただ、でも本当に何かあったときに、多分マンションだったらドアも開かなかったりして、もしかしてドンドンされてもわからない。そんな見てそのまんまっていうのは、何かちょっと寂しいなって感じなのでね、やっぱり若い世代っていうのが、すごく私にとってはこういう機会があって、お話できるかなと思ってきました。

案外自分の年齢の人たちはいつもしゃべっているのわかるんですけども、やっぱりもう年が離れてしまって、子どもとは違う若い人たちの意見というのも、何となく知りたいなっていうのがあります。

○弟子丸部会長

先ほど若い人の、高齢者だけじゃなくて、若い人の関わりを持っていく、町会にとっては、やっぱり若い人の活躍するっていう、また地域も変わりますので、その中ではね、それぞれ、色んな人が繋がりを持っていく、関係性をどう築いていくっていうのは大きいと思うんですが、その辺はどうですかね。ご意見いただければ。高齢者は今言ったように、高齢者、結構地域の中でもね、喫茶ですよ、ふれあい喫茶や色んな人に百歳体操とか、色々やられているので、あとはいかに、繋がりを持ってきていただいて、動いたりしていくっていうことはできるんですけど、今言ったように若い人との関わりをどう作っていくのかというところで、地域ではね、それぞれ町会とか色んなところでは、どのような関わりを持って、一つは

ね、私がすごい感心してるのは祭りですよ。結構若い人たちが山車、色んな祭りのときにこう見るんですけど、山車を引いてるのは、若い人がやっぱり先頭立ってやられてるなあと。そして結構、いや私も城東区に来て、すごいなと思ってます。結構地域ごとに山車を引かれて、祭りの時期になったら。若い人もいる、たくさんいらっしゃるなと思ってるので。やっぱりそういう若い力が、特にこういう災害時になったときには、やっぱり若い人含めて、みんな連携していかないと、助けあっていかないと大変だと思うんで、その辺の繋がりをどう作っていくっていうのがね、やっぱり大きな課題じゃないかなと思ってんですけど、その辺どうですかね。

○椿谷保健福祉課長

部会長おっしゃったように、まさにお祭りなんかね、ちっちゃい子から、お父さん、お母さん、若い子、かなり参加されますね。そういうのが非常に繋がりづくりの一つのきっかけになるかなっていう、それが一過性に終わらず、うまく地域活動に繋がってけるとですね。

○高橋委員

アイデアみたいなことでもいいですか。

○弟子丸部会長

はい。言ってください。

○高橋委員

ちょっと今、お祭りの話で思いついたんですけど、やっぱり、僕らもあんまり時間がない、仕事で疲れて週末も家にいるみたいなことが多いんですけど、その地域で年代を超えて触れ合いを作るってやっぱりお祭りもすごくいいなと思ったんですけど、そこでフリーマーケットみたいなことを定期的で開催するのはちょっとどうかなと思ったんですけど。それは、結構やっぱり若い世代がちょっとアンティークなもの好きっていうのと、もうこんな誰が使うんだろうっていうのを高齢者の方が出品して、逆に若者が、そこで売ったり買ったりというところで、ちょっとコミュニケーション増えるかなとか、あとは、物を大事にするっていうところで、そういった有効活用もできるのかなと思ったりして、なんかフリーマーケットっていうのとかがあったら面白いかなと思いました。

○弟子丸部会長

もうあと15分でこの部会を閉めていかないといけないで、今日の予定では。もし、皆さん、最後にこのことだけは言うておきたいというのがございましたら、何でもおっしゃってください。

○嶋委員

ちょっと脱線しますけど。

○弟子丸部会長

いいですよ。

○嶋委員

8月の終わりの城東まつりやったのが、SARUGAKUになったのは何でなんですかね。今

年は8月28日だったか、29日だったかちょっと忘れちゃったけど、城東まつりやとずっと思  
い込んで、ひょっと見たら SARUGAKU、何で SARUGAKU なのって一瞬思ったんです  
けど。以前は城東まつりだったんですけど。

○有田委員

城東まつりは時期が変わったんです。

○嶋委員

時期が変わったんですね。で、SARUGAKU がいつから 8 月になったんですか。  
SARUGAKU ってなんで SARUGAKU なんですか。

○有田委員

ちょっとうちの団体じゃないでわからないんですけど。

○嶋委員

あれはどこの主催なんですか。

○有田委員

地域です。

○嶋委員

地域なんですか。地域っていうのはどういう地域なんですか。区も関わってないプライベ  
ートな祭りなんですか。

○河西企画担当課長

任意団体でいらっしゃるんですけども、広報支援は区役所の市民協働課がやっている  
かと。私もちょっと担当ではないので、詳しいことはわかりかねますが。

○嶋委員

8 月末のお祭りがいつから SARUGAKU になったんですか。

○河西企画担当課長

8 月の城東まつりが SARUGAKU に変わったわけではなく、もともと城東まつりが 8 月  
に開催されていたのが、実行委員会の方でお話しをされて、11 月にしましょうというこ  
とで変更になったわけですね。

○嶋委員

それは城東まつりですね。SARUGAKU 祭はいつから。

○河西企画担当課長

SARUGAKU 祭は何年も前から、私の記憶では秋にやっておられたと思うんですけど、  
それが今回 8 月に変更されたということですね。

○嶋委員

すいません。どうでもいいことで時間とって申し訳ない。

○弟子丸部会長

何か SARUGAKU はちょっとわからないんですが、結構、施設っていうんですか保育所  
とか、老人ホームに勤めてた職員で、うちの関係の団体はそういうのに参加してたんです

よ。物品を販売したりとか、模擬店みたいのやったり。

すいません私もどこが主催かわからないんですが、そういう団体が参加してたのは知ってるんです。

○嶋委員

いや、だから高橋さんのあれじゃないけど、そういう、逆にね、祭りが、起爆剤になるかもしれませんね。

○弟子丸部会長

ということで、15分になりましたので、よろしいですかね。

皆さんの意見は、一つは地域福祉協議会がどういう活動されているのかというところから話が、質問が出されて、それから若い人、主に高齢者の見守り活動を中心にしながら、地域との繋がり、色々行なっている中で、やっぱり今度は城東区の中にマンション、1Kマンションが増える中で、若者がどんどん入ってるように見えるけど、若者たちとどう連携してちゃんと城東区を盛り上げていくか、これからの大きな課題だと思うので、1つはやっぱり色んな取組みですね、今言ったフリーマーケット、それからお祭りには特に世代間、色んな方たち、世代の繋がりを作っていくって、地域の活性化に、お互いに知り合う機会を増やしていくことが、やっぱり大事だと思う。やっぱり1歩でもその家から外に出て人と関わっていかないと、やっぱりそういう人同士の繋がりができないと思いますので、そういう中で、今日参加されている方たちも地域活動協議会の活動をされていますので、これからも、そういうところからこの地域福祉部会としても進めていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。今日はそういう話でまとめさせていただきますが、よろしいでしょうか。何かあれば。

じゃ、この部会は一応終わりにしたいと思います。